

実践報告

感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラムの成果

勝野絵梨奈, 栗原保子, 武田千穂, 邊木園幸, 田中美幸, 阿南裕子, 佐藤五十鈴

【要旨】

筆者らは、所属施設においてリーダーとしての役割を發揮しながら感染対策を推進できる人材の育成をねらいとし、平成25年度に「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」を立案した。本プログラムをもとに実施した研修会の評価をふまえ、今回プログラムの再構成を行った。本研究ではその成果を明らかにする事を目的とする。

対象者は、平成26年度「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」をもとに開催した研修会を受講し、本研究への参加を承諾した受講生で、研修終了直後及び2ヶ月後に、無記名によるアンケート調査を実施した。項目は、研修内容への「理解度」「満足度」、「日常の感染対策において困難な点の有無」及び、受講生の意識や実践の変化を測るものとし、選択肢及び自由記述形式で回答を求めた。分析方法は、記述統計及び内容分析を用いた。回答数は、研修終了直後及び2ヶ月後とも19名（100%）であった。

研修内容に関しては、7~8割の受講生から「理解しやすかった」との回答が得られた。また、新たに追加した＜問題解決型ワークショップ＞への参加を通じ、約7割の受講生が日常の感染対策の実践で困難と感じる点に対し、有効な解決策を得ていた。さらに、研修終了2ヶ月後の時点において、約8割の受講生が改善に向けた取組を行っていた。自由記述内容の分析では、感染管理に対する意識の変化として【実践上の課題の明確化】【基本となる知識と技術の重要性を再認識】【感染対策委員としての自覚の高まり】【役割継続への意欲】【組織的取組の必要性を実感】からなる5つのカテゴリーが抽出された。

以上のように、多くの受講生が所属施設における感染対策上の問題点を捉え、改善に向けた取組へ繋げていた事から、本プログラムの成果を明らかにできた。今後も所属施設においてリーダーとしての役割を發揮できる人材の育成を継続すると共に、組織化へ向けた支援の必要性が課題として示唆された。

【キーワード】 出前方式体験型研修、医療機関、感染管理、リーダー育成、プログラム

Erina Katsuno, Yasuko Kurihara, Chiho Takeda, Miyuki Hekizono : 宮崎県立看護大学
Miyuki Tanaka : 宮崎県福祉保健部
Yuko Anan : 宮崎県延岡保健所
Isuzu Sato : 延岡市医師会病院

I はじめに

近年、新興感染症や再興感染症の出現により、世界中で感染症対策への関心が高まっている。日本においても、厚生労働省を中心とした感染症対策の強化が進み「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が一部改正されるなど、感染症予防及びまん延防止に対する対策は日々変化を遂げている。特に医療機関では、医療関連感染の予防及び発生時の拡大防止が重要となるため、多職種間の連携を強化し、組織的取組を推進していく事が求められている。なかでも感染対策を担う看護職者は、その中心的役割を担うことが期待されているため、リーダーとしての役割を發揮しながらチーム医療の推進に資する人材の育成は、重要な課題である。

このような背景をふまえ、筆者らは平成25年度、「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」を立案し、このプログラムをもとに研修会を開催した。研修終了後に実施したアンケート調査結果の分析を通し、本研修会の継続的な意義を見出す事ができたものの、感染対策担当者として現場で抱く様々な困難感に対し、実践可能な解決策を主体的に見出していくプロセスまでには繋がり難いという現状も明らかとなつた¹⁾。

本研修会の受講生は、所属施設における感染対策活動を中心的に担う立場にあり、研修受講後は、より一層その力を發揮することが求められる。村上²⁾は、看護職リーダーとしての役割を發揮するためには、体験・観察によって得られた事実への繊細かつ敏感な認識力、豊かな想像力と鋭い洞察力をふまえた問題解決力が重要となることを指摘しているが、前述したとおり、現状のプログラムではそのような能力の育成に繋がり難いことが明らかとなつたため、内容の改善が必要であると考えた。

そこで、グループワークや専門家への相談の場を設けることで、受講者が所属施設における感染対策上の問題点を明確にし、具体的な解決策を立案することができるよう、感染管理認定看護師がチーフとして参加する「問題解決型ワークショップ」を

新たに導入し、「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」を再構成した。今回、本プログラムをもとに研修会を開催し、研修終了後にアンケート調査を実施した。本研究の目的は、アンケート調査結果の分析を通し、本プログラムの成果を明らかにすることである。

II 研究目的

再構成した「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」の成果を明らかにする。

III 研究方法

1. 研究対象

「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」をもとに開催した研修会を受講し、本研究への参加を承諾した受講生。

＜研修の概要＞

「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」は、「I. 感染管理における看護の専門性—講義—」「II. 実践型感染対策演習—事例検討—」「III. 直接体験型感染対策演習—院内ラウンド—」「IV. 問題解決型ワークショップ」から構成し、対象は、協働開催した保健所管内医療施設の院内感染対策担当者とした。「I. 感染管理における看護の専門性—講義—」を研修の導入と位置づけ、＜医療関連感染に関する最新の動向と知識＞＜医療関連感染対策における看護職者の視点＞について、医師および感染管理認定看護師による講義主体の展開とした。また、講義で得た知識を活用しながら「II. 実践型感染対策演習—事例検討—」を行うことで、看護職者および組織としての視点が深まるよう展開した。さらに、これらの視点をもって、現場の感染対策状況の把握及び指導を通じ感染対策の実効性を高める活動である「院内ラウンド」を行うことで、リーダーとして感染管理活動を推進していくうえで必要となる感染対策の視点が強化されることを目的とし、「III. 直接体験型感染対策演習—

表1 研修の概要

内容	目的
I. 感染管理における看護の専門性—講義—	【医師および感染管理認定看護師による講義】 感染症や感染対策の根拠について理解する
II. 実践型感染対策演習—事例検討—	【ノロウイルス感染症事例を活用した事例検討】 感染対策における看護職者および組織としての視点を深める
III. 直接体験型感染対策演習—院内ラウンド—	【ラウンドシートを活用した院内ラウンド】 感染対策への視点を強化する
IV. 問題解決型ワークショップ	【グループワークおよび専門家への相談】 日頃の実践上の不安や疑問に対する解決策を検討する

「院内ラウンド」を開催した。この「院内ラウンド」においては、主体的な取組への意識が高まるよう、観察すべき重要なポイントについて整理されているラウンドシートを活用した。さらに今回、「IV. 問題解決型ワークショップ」を新たに追加し、グループワークや専門家への相談を通じ、日頃の実践上の不安や疑問に対する解決策を受講生全員で検討できる機会を設け、より所属施設における感染対策の質向上へ貢献できるよう構成した（表1）。なお、ファシリテーターには、感染管理認定看護師を配置した。

2. データ収集期間

平成26年11月～平成27年1月

3. データ収集方法

1) 自記式質問紙の作成

研修受講者に対し、①研修内容の評価、②意識や実践の変化について調査する目的で、自記式質問紙を作成した。

① 研修内容の評価

調査内容は、「I. 感染管理における看護の専門性—講義—」「II. 実践型感染対策演習—事例検討—」「III. 直接体験型感染対策演習—院内ラウンド—」「IV. 問題解決型ワークショップ」に対する『理解度』、『満足度』および『日々の感染対策において

困難な点の有無』を把握するための12項目から構成した。

『理解度』、『満足度』については5段階リッカート尺度を、『日々の感染対策において困難な点の有無』については2項選択法を用い、その具体的な内容については複数選択方式で回答を求めた。

② 受講生の意識や実践の変化

調査内容は、『所属施設における感染対策改善に向けた取組』および、『感染管理に対する意識の変化』について把握するための3項目から構成した。

『所属施設における感染対策改善に向けた取組』については、その有無に関して2項選択法を用いた。取組み始めたと回答した者に対しては、その具体的な内容について、自由記述方式で回答を求めた。また、『感染管理に対する意識の変化』については、全員に自由記述方式で回答を求めた。

なお、調査に使用した自記式質問紙に関しては、本調査に先立ちプレテストを実施し、質問項目への理解や回答しやすさに関する意見収集を行った。その結果をふまえ、共同研究者間で再考し内容的妥当性の確保を行った。

2) 調査方法

研修内容の評価に関する調査については、研修終了直後に自記式質問紙を配布し、回収箱への提出を依頼した。また、受講生の意識や実践の変化に関する

る調査については、研修終了2ヶ月後に自記式質問紙を郵送し、定期日までの返送を依頼した。なお、全ての調査は無記名とした。

4. 分析方法

- 1) 5段階リッカート尺度及び、2項選択法で回答を求める項目については、記述統計を用いた。
- 2) 「所属施設における感染対策改善に向けた取組」に関する自由記述内容については、記述内容を精読し、意味内容ごとに整理した。
- 3) 「感染管理に対する意識の変化」に関する自由記述内容については、記述内容を精読し、リーダーとしての役割を担う上での気づきに着目し、文脈に留意しながら1つのまとまりをもった意味ごとに区切って取り出しこード化した。その後、意味内容の類似性に基づいて帰納的に分析をすすめ、第1段階をサブカテゴリー、最終コードをカテゴリーとして表した。なお、分析過程においては、質的研究の経験のある複数の研究者との検討を経て、分析結果の妥当性の確保に努めた。

5. 倫理的配慮

本研究対象者には、研究目的と意義、匿名性の確保、参加の自由、データの管理、研究結果の公表について、研究協力依頼文書を用い、研究に関与していない第3者が口頭で説明した。そして、回収箱への提出及び、郵送による返信をもって承諾の意思とした。なお、本研究は宮崎県立看護大学研究倫理委員会の承認を得ている。（承認番号：平成26年度第12号）

IV 結果

本研修を受講したものは19名であり、全員から回答を得ることができた。

1. 研修終了直後

1) 感染管理における看護の専門性—講義—

講義内容は、「理解しやすかった」が15名（78.9%）、「やや理解しやすかった」が4名（21.1%）であった。また、「参考になった」が17名（89.5%）、「やや参

考になった」が2名（10.5%）であり、約7割の受講生が「講義内容を今後の実践に活かせそう」と回答した。

2) 実践型感染対策演習—事例検討—

冬季に施設内での流行が問題となりやすい感染症であるノロウイルスの感染症事例を活用した。ノロウイルス感染症は、感染経路が多様かつ感染力も強いことから、患者だけでなくその家族、医療従事者も感染し、媒介者となる可能性が高く、感染拡大を防ぐために日常の十分な備え、発生時の早急な対応が必要となる。したがって、そのような観点から検討できるよう設問を立て、グループワークを中心に展開した。その結果、具体的な感染対策のポイントに関しては、「理解しやすかった」が15名（78.9%）、「やや理解しやすかった」が4名（21.1%）であった。さらに、事例検討を通じ、「看護師としての感染対策の視点が明確となった」と回答した者が13名（68.4%）、「組織としての感染対策の視点が明確となった」と回答した者が12名（63.2%）であった。

3) 直接体験型感染対策演習—院内ラウンド—

院内ラウンドを通して、感染対策上の観察のポイントが具体的に「理解できた」と回答した者は17名（89.5%）であり、残り2名（10.5%）は「やや理解できた」と回答した。また、活用したラウンドシートについては、8割の受講生が「自施設においても活用できそう」と回答した。

4) 問題解決型ワークショップ

日常の感染対策の実践において、全員が「困っていることがある」と回答した。また、その内容で最も多かった項目は、「職員の教育」（57.9%）であり、次いで「感染対策にかかる費用」（52.6%）であった（図1）。それらの問題に対し、13名（68.4%）が＜問題解決型ワークショップ＞の参加によって有効な解決策を「得られた」と回答し、全員が「自施設での感染対策に活かしたい」と回答した。

2. 研修終了2か月後

1) 所属施設における感染対策の改善に向けた取組に

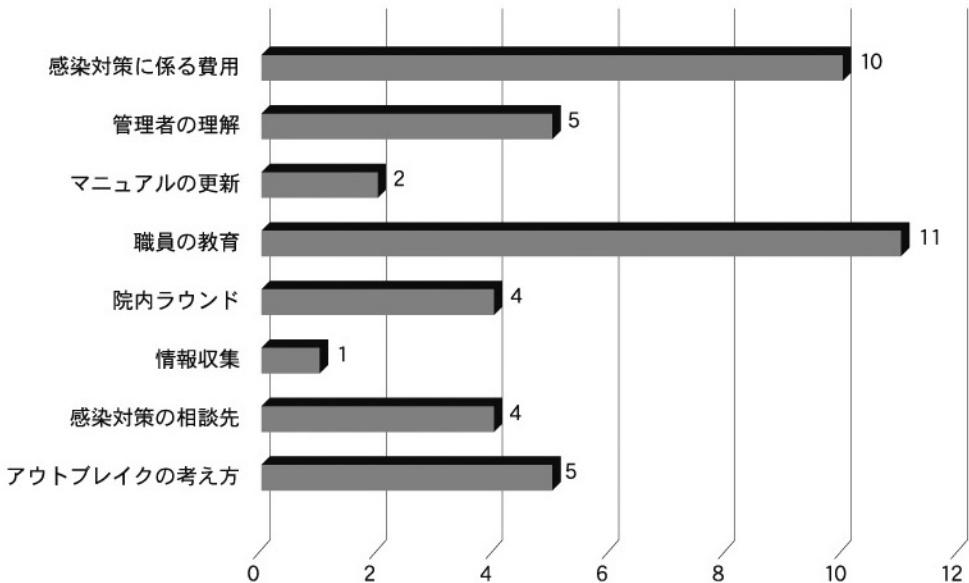


図1 日常の感染対策の実践において困っていること (N = 19, 複数回答)

について

研修会終了後、15名（78.9%）が所属施設における感染対策の改善を「行った」と回答しており、「行っていない」と回答した4名に関しても、「これから実施する予定」としていた。

具体的な取組内容としては、「職員の手指衛生実施状況の観察」「適切な手指衛生実施に向けた環境整備」等、手指衛生の遵守率向上に関する取組が挙げられた。また、「インフルエンザやノロウイルスに関する学習の場の設定」「吐物処理訓練の定期的な実施に向けた計画立案」等、院内で問題となりやすい感染症の拡大防止に関する教育的取組のほか、

「清潔・汚染区域の区分の徹底」「安全に滅菌物を管理するための場所の工夫」等、清潔と汚染の交差を防ぐためのゾーニングの実施に関する取組、「委員会での情報共有」「院内感染対策マニュアルの見直し」等、組織的取組の推進に関するものが挙げられた。

2) 感染管理に対する意識の変化について

自由記述内容は26コードに整理された。それらから11サブカテゴリー、5カテゴリーが抽出された。

以下に、その過程の一部を示す。その際、コードを「」、サブカテゴリーを<>、カテゴリーを【】として表す。

「日常的な環境整備の重要性に気づいた」「これまでの対応の見直しが必要だと感じた」などからは、<日常的な感染対策整備の重要性に改めて気づく>を抽出した。また、「所属施設の現状を総合的に振り返ることを通じ、課題が明らかになった」「所属施設の状況を振り返り、課題や改善策についてのヒントを得た」からは、<施設の現状を振り返り課題を見出す>を抽出した。さらにこれら2つのカテゴリーから、【実践上の課題の明確化】を抽出した。

他のコードも同様に分析した結果、最終的に【実践上の課題の明確化】【基本となる知識と技術の重要性を再認識】【感染対策委員としての自覚の高まり】【役割継続への意欲】【組織的取組の必要性を実感】という5つのカテゴリーが抽出された（表2）。

V 考察

本研究は、所属施設においてリーダーとしての役割を発揮しながら感染対策の推進に貢献できる人材

表2 感染管理に対する意識の変化

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
実践上の課題の明確化	日常的な感染対策整備の重要性に改めて気づく	日常的な環境整備の重要性に気づいた これまでの対応の見直しが必要だと感じた
		必要時の対応にむけ、定期的に物品の確認を行うようになった 基本的な感染対策が遵守できるよう、環境整備重要性を痛感した
	施設の現状を振り返り課題を見出す	所属施設の現状を総合的に振り返ることを通し、課題が明らかになった 所属施設の状況を振り返り、課題や改善策についてのヒントを得た
基本的となる知識と技術の重要性を再認識	知識定着に向けた反復研修の必要性を実感	職員全員が行動の根拠を理解できるよう、繰り返し研修をすることが必要だ 標準予防策、感染経路別予防策の院内研修を繰り返し行うことが必要である
		手指衛生の徹底の必要性を再認識した マスクを正しく装着することが重要だ 感染拡大防止のためにも、手技の統一は大切である
	基本技術の重要性を実感	
		感染対策に対する意識の向上
感染対策委員としての自覚の高まり	感染拡大を防ぐため、早期対応への意識が高まる	感染対策に対して、より具体的に考えるようになった 感染対策について、自ら日々考えるようになった
		ちょっとした異常を感じたら、すぐに情報共有するよう心がけている 感染経路や潜伏期間が気になり、仕事や私生活でも常に注意するようになった
	感染対策教育への責任を自覚	理解しやすく実践可能なマニュアル作りをしなくては、と思った 委員の一員として、責任をもって一つ一つの対策を考え、勉強していかなければならない
役割継続への意欲	実践を通して役割モデルとなることへの意志	常に新しい情報を見聞する努力をし、実践していかなければならない 感染対策委員として、自身の行動が職員のモデルとなるよう頑張っていきたい
		今後もより明確な実践の根拠を伝えていくために努力したい
	関わることへの自信	スタッフに対し、根拠をもとに伝える力が身についてきたと感じる
組織的取組の必要性を実感	職員間の情報共有の重要性を再認識	スタッフとのコミュニケーションの大切さを改めて感じた 上司への報告、連絡、相談の重要性を再認識した
		感染を防ぐためには、個人ではなく組織で取組むことが必要不可欠だと実感している
	職員全員の理解と実践により感染対策が可能となることへの理解の深まり	感染対策は、全員が理解し取組めなければならないものであると、より強く感じている
		感染対策は一人で努力していてもできない事が多く、スタッフ全員の協力が必要である

の育成をねらいとし、再構成した「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」の成果について明らかにすることを目的とし取組んだ。結果では、受講生の多くが施設における感染対策上の問題点を捉え、自身の役割を自覚し、具体的な解決策をもとに所属施設における取組へ繋げていたことが明らかとなった。考察では、本プログラムが、そのような受講生の意識と実践に変容をもたらした要因と、残された課題について述べる。

1. 本プログラムが受講生の意識と実践に変容をもたらした要因

小林は、日々の業務を遂行する上でリーダーに求められる能力として、「問題を発見する能力」を挙げている³⁾。本研究の結果、感染管理に対する意識の変化として抽出された【実践上の課題の明確化】で示されるよう、受講生は日常的な感染対策の重要性に改めて気づき、所属施設の状況を振り返ることを通して課題を見出すことができていた。松尾は、このような能力の育成に必要な支援として、根拠や意味を考えさせる機会をつくることの必要性について指摘している⁴⁾。本プログラムは、リーダーとして感染管理活動を推進していくうえで必要となる感染対策の視点が強化されるよう、講義内容をふまえ

た事例検討において、組織および看護職者としての視点を明らかにした後、一医療機関における＜院内ラウンド＞を実施する、という一連の流れで展開しているが、研修終了直後のアンケート調査結果が示すよう、これらの内容に対しては、高い理解度および満足度を得ることができていた。また、新たに導入した＜問題解決型ワークショップ＞では、受講生から出された日頃の実践上の不安や疑問に対し、チューターとして参加した感染管理認定看護師より、必要な情報の提供や、根拠を踏まえた改善策の提案等がなされ、活発な意見交換が進んでいた。それにより、日常の感染対策において困難な点として挙げられていた内容に対し、約7割の受講生が有効な解決策を得ることができていた。さらに、感染管理に対する意識の変化として抽出された【基本となる知識と技術の重要性を再認識】でも示されるよう、本プログラムをもとに実施した研修会は、日頃の実践の根拠や意味を、改めて確認する機会となっていたことが示唆された。また、研修終了2ヶ月後のアンケート調査結果が示すよう、約8割の受講生が所属施設の問題解決に向けた継続的な取組へ繋げることができていた。特に、手指衛生や、感染症の拡大防止に関する勉強会の開催等、最も多くの受講生が困難な点として挙げていた「職員教育」という観点から取組んでいる受講生も複数見られた。これは、平成25年度の報告¹⁾では示されなかった内容であることから、今回新たに導入した＜問題解決型ワークショップ＞による効果が大きいと考えられる。したがって以上のことから、一連のプログラムの中で実践の根拠や意味を確認する機会をつくること、専門家への相談を通して問題の焦点化及び改善策の検討を行う機会をつくることは、所属施設における問題解決に向けた実践へと繋がりやすいことが示唆された。

また、所属施設においてリーダーとしての役割を発揮するためには、自分自身に求められる役割を自覚することが重要となる²⁾。遠藤ら⁵⁾は、リーダーに必要な態度として《自己と向き合う》ことを挙げ、リーダー看護師は、組織での役割を理解し、自分の

考え方や行動に対し真摯に向き合っているとも述べている。今回抽出された、【感染対策委員としての自覚の高まり】【役割継続への意欲】の2カテゴリーは、リーダーに求められる資質を示す内容であり、自身の実践や施設の感染対策状況に対し改めて向き合ったことで、組織において自分が果たすべき責務を自覚できた結果であると考えられる。さらに、このような意識の変化をもたらした要素として、ロールモデルの存在も考えられる。舟島ら⁶⁾は、看護師のロールモデル行動について、協働する看護師全体の専門職者としての態度や行動の修得促進に貢献すると述べ、43のロールモデル行動を明らかにした。本研修会でチューターとして参加した感染管理認定看護師は、受講生の抱く困難感に共感しながら、専門的知識を踏まえて実践可能な助言を行い、今後地域における感染管理の質向上へ向け、共に取組んでいく姿勢や受講生への期待を示していた。これらの行動は、舟島らが示したロールモデル行動のうち、＜幅広い知識・技術の活用＞＜主体的に学習を継続し専門性を高める努力をする＞＜熱意を持ち目標とする看護の実践＞⁶⁾などに含まれると考えられる。したがって、専門性の高い感染管理認定看護師の行動は、受講生のロールモデルとしての役割を果たしていると言え、リーダーとしての自覚や、役割継続への意欲へと繋がった一つの要因であることが示唆された。

2. 本プログラムにおける残された課題

平成23年6月、厚生労働省医政局指導課より「医療機関等における院内感染対策について」との通知が出され、医療機関内外での組織体制や支援体制の構築が求められた⁷⁾。しかし、今回抽出された【組織的取組の必要性を実感】に示されるよう、スタッフ間の意識や知識レベルの差から、感染対策が個々の取組のみに留まり効果的に推進できていないことを課題として捉えている受講生もみられた。今回研修会を開催した地域には大規模病院は存在せず、研修受講者の所属施設はすべて中小規模である。土井ら⁸⁾は、そのような中小規模病院に対する支援の在

り方として、感染対策の実践力の向上とそのための人材育成や組織化への支援が重要であると指摘している。したがって今後は、受講生が所属施設においてよりリーダーとしての役割を發揮し、多職種との連携を図りながら組織的取組を推進していくような支援も必要となると考える。

感染対策の推進においては、組織の中でロールモデルとして実践できる人材の育成とともに、日常的な感染対策の整備にかかる経済的な側面も切り離すことのできない問題である。本研修会においても、多くの受講生が「職員教育」や「感染対策にかかる費用」といった共通性の高い問題を抱えながら活動している現状が明らかとなった。特に中小規模の医療施設においては、診療報酬改定が行われても加算の条件を満たすことが難しく、感染予防対策よりも経費のほうが優先されやすいとの報告もある⁹⁾。前田ら¹⁰⁾は、手指衛生や個人防護具など、標準予防策にかかる費用の問題解決に向けては、今後、国家レベルで取組むべき課題であると述べつつ、医療監視の際の保健所の指摘が実践の向上へ繋がることも示している。したがって、今後も本研修会の継続的な実施を通じ、リーダー育成へ向けた支援を行っていくとともに、医療機関や行政機関との連携を図り、積極的に外部の評価を取り入れる機会をつくることを通し、感染対策における環境面の整備に向けた支援も可能となるよう、プログラム内容をさらに検討する必要性が示唆された。

VI 結論

本研究の結果、「感染管理におけるリーダー育成を目指した出前方式体験型教育プログラム」をもとに開催した研修会受講生の多くが、施設における感染対策上の問題点を捉え、リーダーとしての役割を自覚し、具体的な解決策をもとに所属施設における取組へ繋げていたことが明らかとなった。その要因として、本プログラムには、実践の根拠や意味を確認する機会や、専門家からの助言をもとに問題の焦点化および改善策の検討を行う機会が含まれていた

こと、ロールモデルとなる専門家の存在があったことが示唆された。今後も所属施設においてリーダーとしての役割を發揮できる人材の育成を継続とともに、多職種連携を図りながらチームとして推進していくよう、組織化へ向けた支援の必要性が課題として示唆された。

引用文献

- 1) 勝野絵梨奈、栗原保子、武田千穂、他 (2015) : 感染対策における<院内ラウンド>を取り入れた出前方式体験型教育プログラムの意義、第45回日本看護学会論文集看護管理、288-291.
- 2) 村上美好 (2013) : 看護管理概説、第2版、124-138、日本看護協会出版会。
- 3) 小林亜美 (2006) : 看護リーダーシップ2—看護チーム活動とリーダーシップ、第1版、10-18、看護の科学社。
- 4) 松尾睦 (2014) : 職場学習を促すリフレクションの実践事例、看護管理、24(4), 336-340.
- 5) 遠藤圭子、岡崎美晴、神谷美紀子、他 (2012) : チーム医療を推進する看護師に必要とされる能力—多職種と連携する看護師への調査から一、甲南女子大学研究紀要、6, 17-29.
- 6) 舟島なをみ、松田安弘、山下暢子、他 (2005) : 看護師が知覚する看護師のロールモデル行動、日本看護学会誌、14(2), 40-50.
- 7) 厚生労働省 (2011) : 医療機関における院内感染対策について
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/44155.pdf> (2016年9月30日アクセス)
- 8) 土井まつ子、篠田かおる、橋本真紀代、他 (2014) : 院内感染対策の包括的な支援プログラムによる中規模病院への支援とその評価、日本看護研究学会誌、37(2), 81-89.
- 9) 岡本紀子、松田ひとみ (2014) : 高齢者介護施設で働く看護師の手指衛生意識と関連因子、高齢者ケアリング学研究会誌、4(2), 1-10.
- 10) 前田ひとみ、矢野久子、南家貴美代、他 (2013) : 地域における薬剤耐性菌拡大防止対策の実現に向けて看護職が取組むべき課題 (第1報)—300床未満の医療機関の感染管理担当看護師と行政機関の保健師に対する面接調査から一、日本看護科学学会誌、33(3), 46-55.

Activity Report

Outcomes of an On-Demand Hands-On Workshop for Leadership Development in Infection Control

Erina Katsuno, Yasuko Kurihara, Chiho Takeda, Miyuki Hekizono, Miyuki Tanaka,
Yuko Anan, Isuzu Sato

【Key words】 on demand hands-on workshop, medical facility, infection control, leadership training, program

Erina Katsuno, Yasuko Kurihara, Chiho Takeda, Miyuki Hekizono : Miyazaki Prefectural Nursing University
Miyuki Tanaka : Miyazaki Prefecture
Yuko Anan : Nobeoka Public Health Center
Isuzu Sato : Nobeoka Medical Association Hospital